



2022年5月30日

各 位

会 社 名 株式会社ジェイテックコーポレーション
代表者名 代表取締役社長 津村 尚史
(コード番号：3446 東証プライム)
問合せ先 取締役 管理部長 平井 靖人
(TEL. 072-655-2785)

長期成長戦略「Innovation2030」策定に関するお知らせ

当社は、2030年までの長期成長戦略「Innovation2030」を策定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. Innovation2030 策定の背景

当社は、「世の中になくオンリーワンの技術により製品を作り出し、広く社会に貢献する」ことを経営理念に掲げ、「科学技術イノベーションの創出に貢献する製品開発を推進する」ことを経営方針に定めております。また、当社事業を通して全てのステークホルダーの皆様の期待に応え、長期的に手を携え、広く社会に貢献していきたいと考えております。

今般、従来の中期3ヶ年経営計画では十分に当社の目指す姿を伝えきれていないと痛感していたため、併せて、2030年までの長期成長戦略「Innovation2030」を策定いたしました。

長期成長戦略「Innovation2030」の策定に際して、10～20年先に当社が目指すべき企業像をご理解頂きたいと考えており、「オンリーワンの技術により製品を作り出し、広く社会に貢献し、持続的に成長するグローバル企業」となるため全社一丸となって取り組んでまいります。

オプティカル事業においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が解消されつつあり、特に昨年後半から欧米、東アジア各国にてコロナ禍により停滞していた放射光施設の投資計画が進み、研究活動が活発化し、需要が回復してきている状況であります。また、既存事業の伸長を図るとともに、現在保有する技術の優位性を保持するためにさらなる技術開発を推進し、既存市場が求める課題解決につながる新規の研究開発を推進しております。さらに、半導体等の新市場においても、既存事業のコア技術を適用した成果が表れてきております。

ライフサイエンス事業におきましても、既存事業の自動細胞培養装置関連のみならず、大学や研究機関と長年にわたり共同開発を行ってきた再生医療事業及び医療機器開発事業において、新たな展開が出てきてまいりました。

また、当社が目指す半導体等の新市場においては事業を取り巻く環境が目まぐるしく変化しており、次世代半導体関連分野におけるX線光学素子の導入など新規事業のスケジュールの変更が余儀なくされております。

そのような環境の中、PCVMという加工技術をもとにした水晶振動子ウエハ加工装置で新たな実績を上げてまいりましたが、新しい加工技術であるCAREの実用化開発を推進しており、市場規模の拡大が見込まれる次世代パワー半導体等の各種デバイスに対応した研磨装置の開発を

行ってまいります。

2. Innovation2030 の詳細

別紙をご参照ください。

(注)

本長期成長戦略「Innovation2030」につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上



Innovation2030

Innovation2030

中長期成長戦略

経営理念

世の中にないオンリーワンの技術により製品を作り出し、
広く社会に貢献する

経営方針

科学技術イノベーションの創出に貢献する
製品開発を推進する

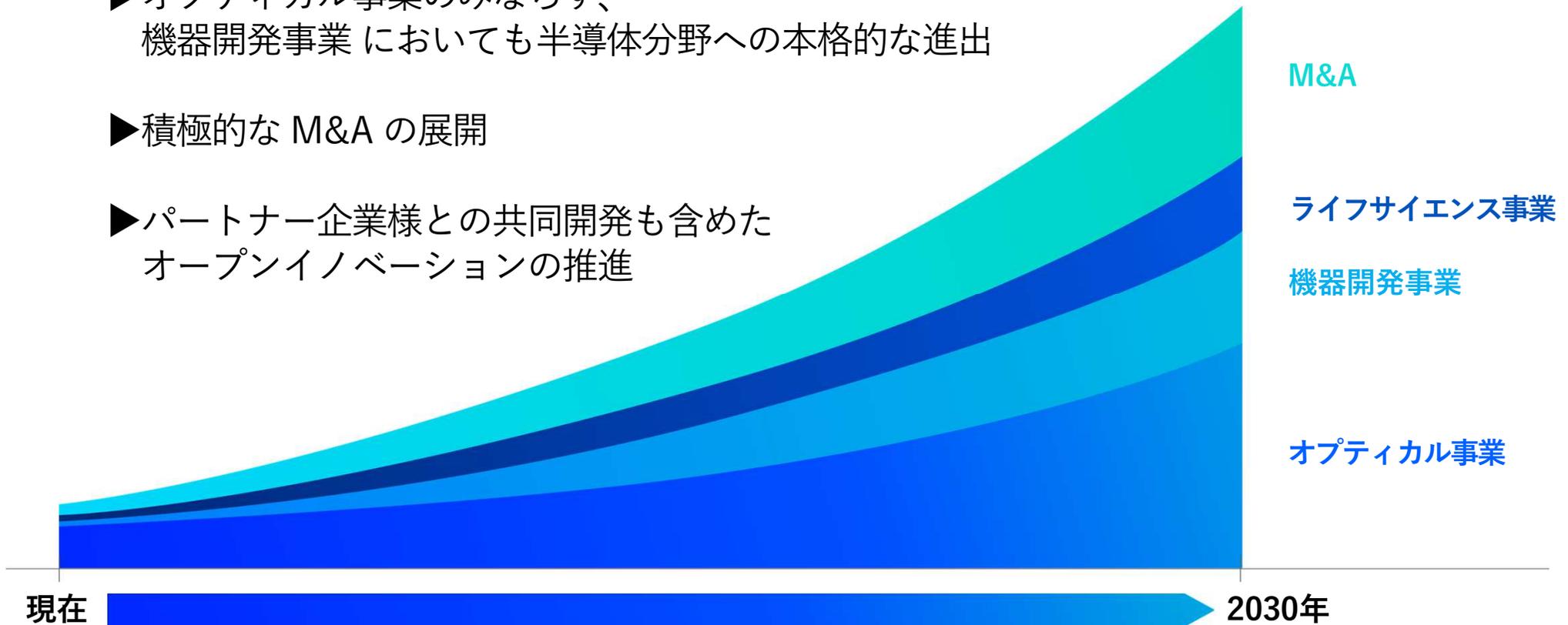
Innovation2030

——— 下記 2 施策を中心とした中長期成長戦略 ———

1 事業領域の拡大

2 既存事業の深耕

- ▶ オプティカル事業のみならず、
機器開発事業においても半導体分野への本格的な進出
- ▶ 積極的な M&A の展開
- ▶ パートナー企業様との共同開発も含めた
オープンイノベーションの推進



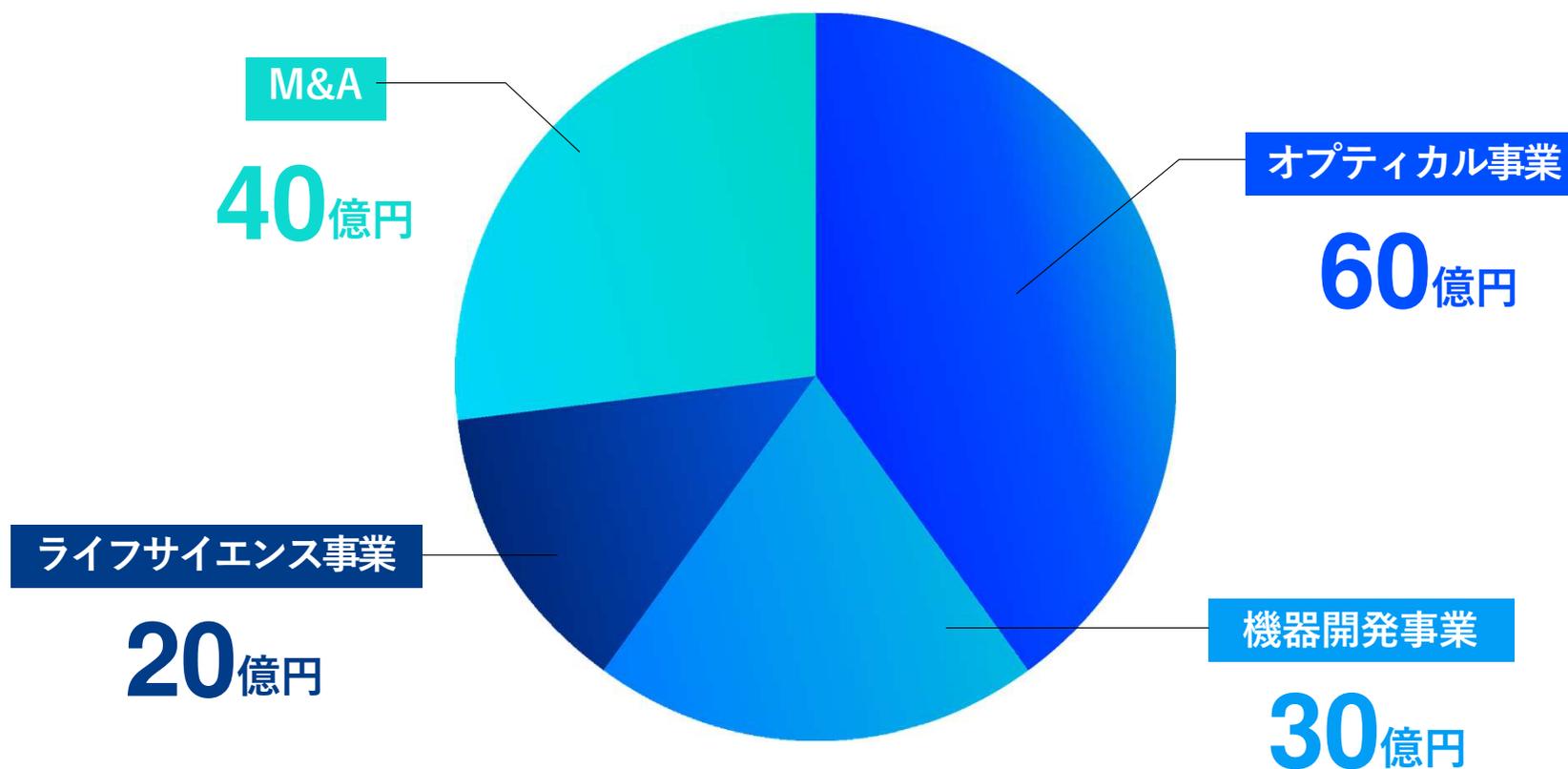
Innovation2030

2030年連結売上

150 億円

2030年
経常利益率

25 %



Innovation2030 3つの開発方針

1 顧客のニーズに応える

わたしたちは、顧客が「何を求めているのか？」に真摯に向き合います。

既に所有している技術力に甘えることなく、常に新しい技術を探求し、顧客の課題を発見し課題解決につながる技術を開拓することで、「社会に貢献する製品を創る」という理念を達成します。

ニーズに応えるために、パートナー企業様などとの共同開発も積極的に実施します。

2 既存技術を応用開発する

わたしたちは、ナノ表面加工及びナノ計測技術に関して、卓越した技術を所有していると確信しています。

医療分野でも、長年培った自動細胞培養に関する各種ノウハウを所有しています。

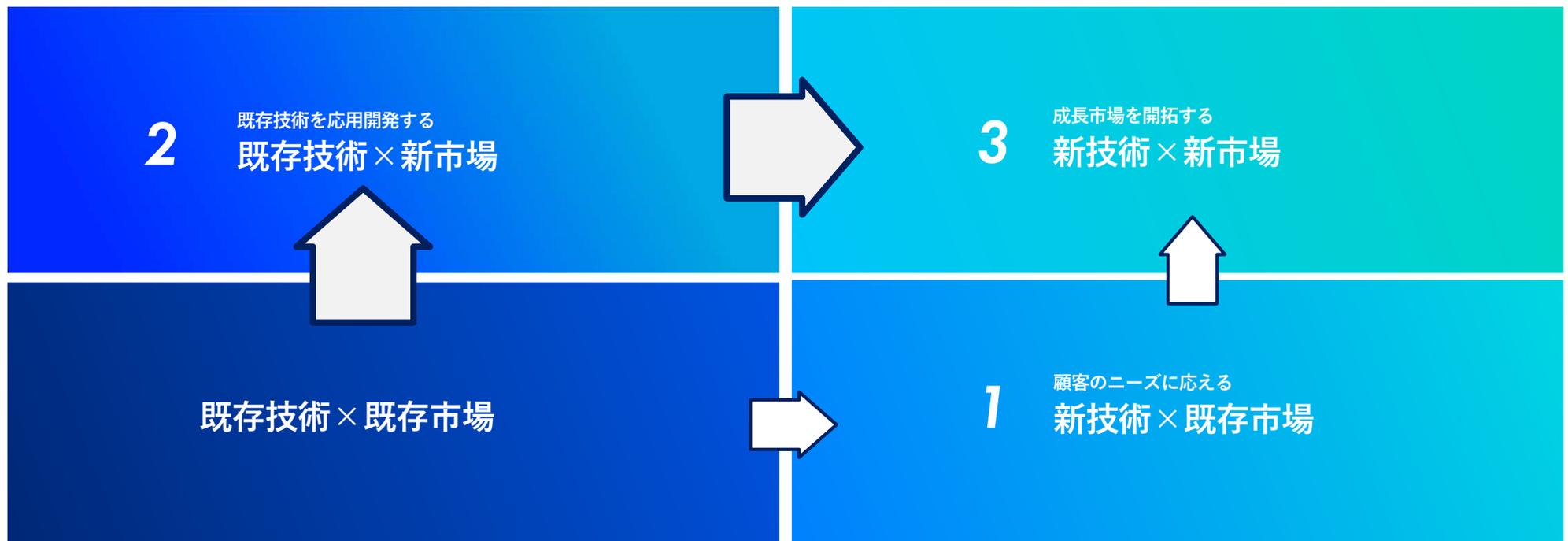
これらの技術の応用技術を開発することで、既存の技術力を更に高め、新たな分野へ進出します。

既存技術の発展のために、パートナー企業様などとの共同開発も積極的に実施します。

3 成長市場を開拓する

わたしたちは、世の中にないオンリーワン技術により社会に貢献することを理念にしています。

わたしたちは、限られたリソースで成長市場(半導体・再生医療等)を開拓することで、より大きな社会貢献を達成します。



加工技術及び計測技術の優位性を活かした事業を展開することで、放射光施設向けのシェアを拡大し、同時に新たな需要（特に半導体検査工程及び宇宙関連分野）に応え2030年度に約60億円を達成する。

市場動向と顧客のニーズ

放射光施設 自由電子レーザー施設の動向

- | 世界中で大型放射光施設のアップグレード計画が目白押し
- | 中国全土で次世代放射光施設のアップグレード計画、新設計画及びX線自由電子レーザー施設の新設計画が顕在化

半導体製造及び検査工程

- | 次世代半導体製造装置及び検査装置に対応した次世代光学素子の需要拡大

宇宙産業

- | 衛星搭載用のX線測定・分析のための、高精度2次元集光X線ミラーの計画を推進

弊社の取り組み

光部品加工

弊社の既存技術と製品

既存技術

ナノ加工技術 = EEM
ナノ計測技術 = RADSI MSI

新技術

先端的加工技術 = CARE等

2030年の姿

既存市場を深耕しシェアを拡大

半導体及び宇宙分野における新市場の需要に応える

技術戦略

- | 大学を中心とする各研究機関との共同研究
- | 協業メーカーと開発でオープンイノベーション

▶ 可変、薄膜、結晶加工を用いた新製品開発

市場及び需要に応える

- | 拡大を続ける放射光施設、自由電子レーザー施設への導入
- | 半導体製造及び検査工程への次世代光学素子の提供
- | 衛星搭載の光学素子を皮切りに宇宙産業への参入

オプティカル事業2030年売上

既存市場

新規市場

高精度ミラー

20 億円

リプレースミラー

5 億円

半導体製造装置及び検査装置に
関連する光学素子適用

20 億円

次世代半導体及び衛星、天体等
高精度特注光学素子適用

15 億円

合計 **60** 億円

SiC, GaNなどを用いた次世代パワー半導体の製造工程に対して、弊社独自のCARE加工の適用を図り、次世代パワー半導体及び各種電子デバイスのウェハ研磨装置を開発する。

半導体分野の将来動向

SiC・GaNなどを用いた次世代パワー半導体等の市場が成長

▶研究段階から実用段階へ移行

半導体デバイス開発及び各デバイスメーカーの課題

次世代パワー半導体の精度向上及び量産体制の構築

▶加工/計測のさらなる高精度、高効率化が不可欠

▶ナノレベルでの表面平坦化、厚みの均一化

半導体デバイスメーカーが抱える課題のソリューション

▶弊社の技術及び製品で解決可能な状況とする

- ・高精度な平坦化加工技術が必要
- ・表面改質及び形状加工技術が必要

弊社の取り組み

装置開発

2030年の姿

- 1 顧客ニーズ及び課題の徹底解剖
 - 2 弊社技術の提供、改良及び共同研究
- ▶加工の対象物、形状、要求精度などに応じた装置を開発

既存技術及び既に取り組みに着手している新技術

- | 原子レベルのナノ加工：EEM表面加工技術
- | 究極の平坦化加工：CARE表面加工技術

▶半導体分野で求められる高精度の平坦化半導体分野での技術応用の目途が立っている

実用化開発

- | 表面改質及び形状の加工：プラズマCVM
イオンビーム

ウェハ研磨装置の開発を実施

- | 次世代パワー半導体、トランジスタ、コンデンサ
SAWフィルタ、水晶振動子

体制の整備

- ▶半導体に取り組むリソースの確保
- ▶半導体向け技術革新専門チームを組成し開発を促進

機器開発事業2030年売上

—CARE加工技術—

SiC,GaN などの
次世代パワー半導体向け研磨装置

20 億円

※(株)東邦鋼機製作所との共同開発

—プラズマCVM、イオンビーム加工技術—

水晶振動子及びその他電子デバイス向け
ウェハ加工装置

5 億円

—世界のレーザー核融合施設向け製品—

ターゲットホルダー、マニピレーター、
ターゲット搬送装置及び新規製品開発

世界 **20** カ所 **5** 億円

※(株)EX-Fusionとの技術連携

合計

30 億円

自動細胞培養装置及びラボオートメーションの製造販売だけでなく、細胞を必要とする事業及び再生医療に関するコンサルティングまで含め、自動細胞培養に関するトータルソリューションを一気通貫で提供する。

顧客のニーズ及び課題

細胞培養の主流は手作業だが…

課題

培養士の不足 / 人件費の抑制 / 働き方改革

▶ ラボオートメーションが規模を拡大している

ニーズ

世界各国で国が創薬事業を支援
再生医療支援 ラボオートメーション化、
間葉系幹細胞(MSC)による治療の拡大

▶ 世界の創薬/再生医療市場も拡大傾向

各国製薬会社

薬価の引き下げが課題

▶ 自動細胞培養装置の導入によるコストダウン

▶ 創薬のためのiPS 細胞の大量生産の必要性

弊社の取り組み

細胞事業 | 再生医療 | 培養装置 | 医療機器

現在の事業

主に研究施設への自動細胞培養装置の製造販売

2030年の姿

- 1 研究施設への自動細胞培養装置の販売だけでなく、ラボオートメーションへの展開
- 2 間葉系幹細胞 (MSC) 治療への展開
▶ 当社の培養技術 CELLFLOAT® を用いて MSC 培養技術を確立
- 3 再生医療へ培養装置及びコンサルティングの提供
- 4 大学、研究機関と取り組んでいる医療機器開発

ライフサイエンス事業2030年売上

自動培養装置及び周辺装置(オートラボ)の製造販売



※2021年は自動培養装置の
日本市場のシェア
2030年は自動培養装置の
アジア市場のシェア
をそれぞれ指しています。

細胞事業、再生医療事業、医療機器製造販売

10億円

当社の培養技術CELLFLOAT®を治療へ展開

- ▶ 間葉系幹細胞 (MSC) を用いた細胞事業への進出
- ▶ 培養軟骨を用いた再生医療事業
(形成外科・美容整形分野)への進出

医療機器開発

2030年までに
3製品 上市

合計 20 億円

1 子会社とのシナジー

電子科学株式会社(2021年5月に完全子会社化)

下記の2つでシナジーを産みだす

- | 当社の営業網を活用して電子科学株式会社の製品拡販
- | 製品の共同開発

2 今後は更に積極的なM&Aを展開

M&Aによりシナジーを産みだし、既存サービスの成長を加速

- | オプティカル分野
- | 加工、分析及び検査分野
- | ライフサイエンス分野

合計 **40** 億円

Innovation2030において、わたしたちはESGを一層重視しガバナンスを強化します。

執行と経営の分離

意思決定のスピードと質を高めるために、下記施策を実施します。

- ① 執行役員制度を設け、業務の執行と監督を分離します。取締役会と経営会議を明確に分離し、統治体制を築きます。
- ② 業務の「見える化」を進め、各業務の「責任及び権限の所在」を明確にします。

ステークホルダーとの対話

今後、株主ミーティングなどを定期的
に開催し、株主様と積極的にコミュニケーションをします。株主様に弊社の将来性をご理解いただき、弊社の価値観をより深く伝達することで、お互いがWIN-WINとなる状況を築きます。

その他、弊社取引先様、従業員、地域の住民様及び企業様などと深い関係を構築し、ステークホルダー様全員と中長期的に成長してまいります。

Mission,Vision,Value 策定

わたしたちは、「世の中にないオンリーワンの技術により製品を作り出し、広く社会に貢献する」ことを経営理念にしていますが、それが一体「何を意味するのか？」までを公表することはありませんでした。

取締役会、経営会議、人事担当、IR担当、広報担当など関係各部署が連携し、経営理念を更に発展させ、企業内外へ発信し、企業文化として経営に反映させてまいります。



Appendix

世界の大型レーザー核融合施設一覧

既設また今後アップグレードが予定されている世界の大型レーザー核融合施設は下記のとおりです。
 下記施設にて核融合を含む各種の科学技術実験が行われています。
 レーザー核融合施設で用いられる高出力レーザー向けターゲット材自動供給機を販売します。

世界の大型レーザー施設

	施設	レーザー施設名	所在国
1	大阪大学	Gekko-XII	日本
2	大阪大学	LFEX	日本
3	理化学研究所播磨キャンパス	SACLA, 500TWレーザー	日本
4	QST	J-KAREN	日本
5	ローレンスリバモア国立研究所	National Ignition Facility,	米国
6	ローレンスリバモア国立研究所	Jupiter Laser Facility	米国
7	ロチェスター大学	OMEGA	米国
8	ロチェスター大学	OMEGA – EP	米国
9	テキサス大学	テキサスPW	米国
10	ミシガン大学	ヘラクレス	米国
11	中国科学院	星光III	中国
12	上海光機所	神光II	中国
13	中国軍事系研究所	神光III	中国
14	韓国原子力研究所	激光IV	韓国
15	CEA	Laser Maja Jule	フランス
16	エコールポリテクニーク	LULI2000	フランス
17	エコールポリテクニーク	APOLON	フランス
18	ラザフォード研	VULCAN	英国
19	ラザフォード研	Astra Gemini	英国
20	EU	ELI(Extreme Laser Infrastructure)	ハンガリー、チェコ
21	CLPU (CENTRO DE LASERES PULSADOS)	VEGA PW LASER	スペイン

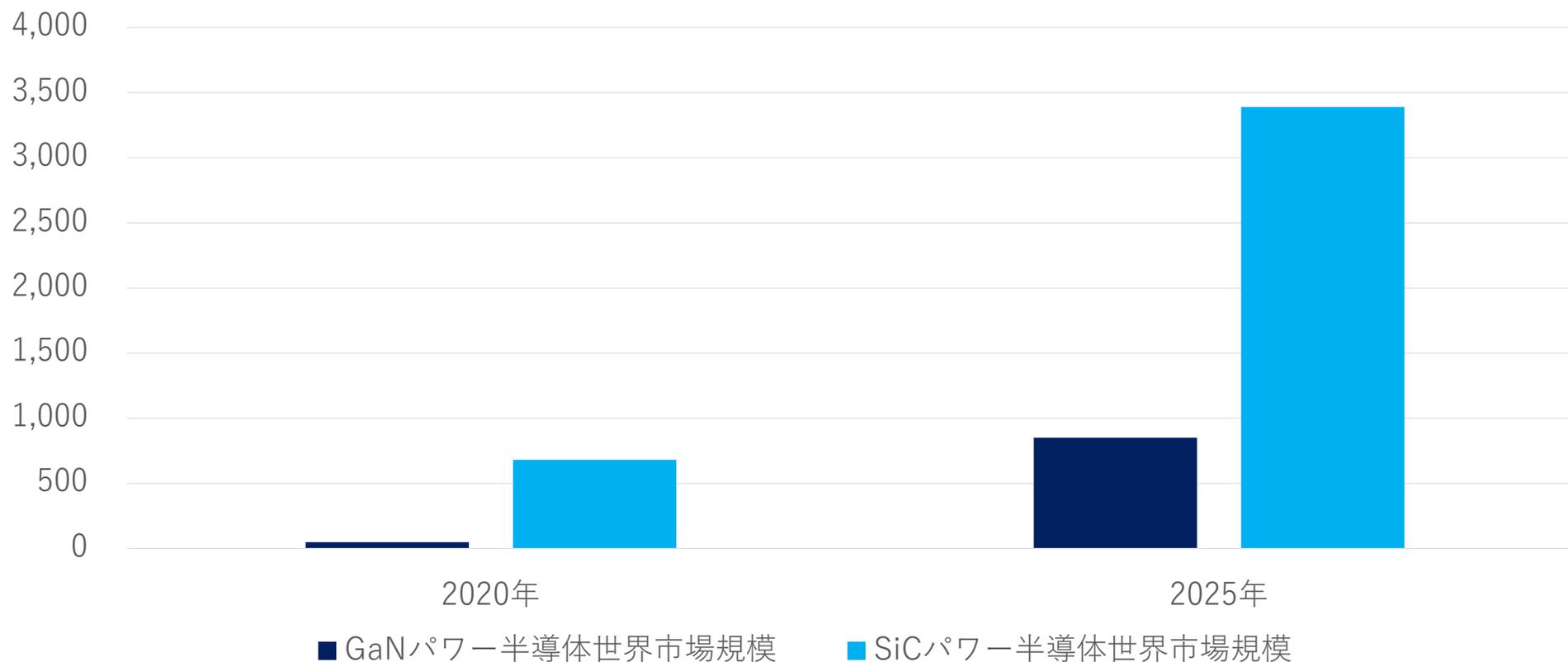
パワー半導体市場の市場規模予測

(単位：百万ドル)

半導体種類	2020年	2025年	CAGR
GaNパワー半導体世界市場規模	48	850	78%
SiCパワー半導体世界市場規模	680	3,390	38%

出典：TrendForce, Sep., 2021

パワー半導体市場規模推移予想



細胞培養装置（自動培養装置／オートラボ＜自動分注ワークステーション＞）の市場規模(アジア市場)

(単位：百万円)

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2030
	実績	実績	実績	見込	予測	予測	予測	予測	予測
自動培養装置	2,115	2,630	2,300	2,680	2,520	2,620	2,730	2,830	3,700
オートラボ ＜自動分注ワークステーション＞	13,640	14,800	16,270	17,710	19,210	20,830	22,540	24,350	27,080
合計	15,755	17,430	18,570	20,390	21,730	23,450	25,270	27,180	30,780

出典：富士経済＜2021年＞

細胞性医薬品（MSC^{※a}／CAR-T細胞^{※b}）の市場規模

（単位：百万円）

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2030
	実績	実績	実績	見込	予測	予測	予測	予測	予測
市場規模	2,040	3,660	2,370	3,300	4,050	4,700	7,400	9,400	15,000

出典：富士経済<2021年>

補足：

a. MSC（mesenchymal stem cell：間葉系幹細胞）

MSCとは、成体内に存在する幹細胞（ステムセル）の一つで、中胚葉由来の組織である骨や軟骨、血管、心筋細胞に分化できる能力を有します。

最近では、アルツハイマー病、パーキンソン病、GvHD治療、脳梗塞、脊髄損傷などの治療に細胞性医薬品として研究開発、実用化検討が進められています。

b. CAR-T（Chimeric Antigen Receptor T cell）細胞

CAR-T細胞とは、遺伝子医療の技術を用いてCAR（キメラ抗原受容体）と呼ばれる特殊なたんぱく質を作り出すことができるようになった患者自身のT細胞を改変したものを言います。

このCAR-T細胞を患者さんに投与する（戻す）ことにより、難治性のがんを治療するのがCAR-T療法と呼ばれるものです。

耳鼻形成手術／変形性関節症手術に係る軟骨製品（再生医療製品）製造に係る現状の潜在市場規模

	培養容器	
	総患者数	潜在市場規模 (単位：百万円)
耳鼻形成出術（国内）	15,646人 ^{※1}	1,600
耳鼻形成出術（海外）	約110万人 ^{※1}	110,000
変形性関節症手術（国内）	約143万人 ^{※2}	143,000
変形性関節症手術（海外）	約3億人 ^{※3}	30,000,000

出典：下記3つの資料を基礎に弊社が作成。

※1

SAPS International Survey on Aesthetic/Cosmetic Performed in 2020, USA, Brazil, Japan, South Korea, Mexico, Germany, France, Colombia

※2

政府統計平成29年度患者調査（傷病分類編）厚生労働省政策統括官（統計・情報政策、政策評価担当）

※3

GBD 2017 Disease and Injury Incidence and Prevalence Collaborators. Global, regional, and national incidence, prevalence, and years lived with disability for 354 diseases and injuries for 195 countries and territories, 1990-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. Lancet. 2018 Nov 10;392(10159):1789-1858.

	培養装置	
	導入先	潜在市場規模 (単位：百万円)
耳鼻形成出術（国内）	約1,200台	12,000
耳鼻形成出術（海外）		
変形性関節症手術（国内）	約6,000台	60,000
変形性関節症手術（海外）		

	培養システム	
	導入先	潜在市場規模 (単位：百万円)
耳鼻形成出術（国内）	約200箇所	16,000
耳鼻形成出術（海外）		
変形性関節症手術（国内）	約1,000箇所	80,000
変形性関節症手術（海外）		

免責事項

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、内部・外部要因等により変動する可能性があります。当社は、本資料の情報の正確性、完全性及び実現性について、何ら表明及び保証するものではありません。

